

| テーマ | 具体的な目標 | 具体的な取り組み | 反省と自己評価 | 保護者からのご意見 |
|--------------------------|---|--|--|---|
| 園の教育理念と目標達成について | 保育教諭に対し、理念・目標への正しい理解と、達成に対する意識の向上を図る。 ＜5つの教育ポリシー＞ <ul style="list-style-type: none">・自律教育を目指す・心身のバランスのとれた保育・個性を大切に育てる保育・より良い環境を提供・豊かな経験と体験 | 園の教育方針を毎日の保育に生かす様、各保育教諭に対し、日々の会議、保育の具体的な相談の中で意識向上を促す。 | 慢性的なマンパワー不足でこのテーマの研修や全体会議が行えない状況です。保育教諭全員の園の理念に基づいた科学的な保育と教育が求められる中、改めて理解する必要があると思います。 | 若い先生とベテランの先生のバランスが良かったと感じました。先生の退職で心配しています。 |
| 家庭と幼稚園の連携 | 不規則な生活の改善・忘れ物を無くすことなどで子どもたちの自立を促す。特に、家庭環境に問題のある子は、個別の配慮を十分にしていく。 子どもたちが、感性、好奇心を育み、健やかな成長の為、家庭と幼稚園の連携を図る。 | 子どもたち直接に伝えて行く。園と家庭生活習慣改善を図る。 忘れ物すると楽しい幼稚園生活に支障を来すことを理解させ、自分の用意は自ら積極的にすることを年齢に応じた対応で意識付ける。 | 連絡事項は個別に伝えなければならない家庭が、年々増えています。子ども自身が困ることのないよう、配慮していきたいと思います。 | 持ち物を自分で気にするようになり嬉しく思います。親としては手紙をもっと注意しなければと思うのですが、先生が必要なものを前日に言ってくれるので嬉しいです。 手紙の内容がわかりにくい面もあります。 |
| 園児の成長・健康・家庭生活の把握と保護者との連携 | 園児の成長・健康状態・家庭環境を深く把握することにより、保護者との信頼関係を構築し、一人ひとり大目に、より深く成長に関わっていく。また、保護者への支援も行っていく。 | 個別の保護者懇談会や保護者との会話を大切にし、園児について教員が共有していく。年々、家庭環境に問題のある子が増えているので、必要に応じて保護者の同意に基づき、医療機関・支援センター等の専門機関と情報交換・連携を行い助言する。 | 園児の様子について密に連絡を取るよう努力しました。しかし、保護者によっては話し合いもまらない家庭もあり、困難でした。 園としての思いと保護者の子どもへの温度差が大きい家庭も多く、意識改革と伝えることの工夫がもっと必要だと思います。 | 仕事優先でもっと子供のことを考えていかなくてはいけないと思うですが、家で過ごすより幼稚園で過ごす時間が長いので、幼稚園任せになってしまっている面もあります。 聞きたくないことも後になってわかることが多いです。ムツとなってしまって後悔したこともあります。 |
| 園生活の様子、園の教育をお手紙で伝える | クラスだより、園だよりの充実を図り、保護者に当園の理解と集団生活の中の子どもたちの様子を伝える。 担任が撮影したスナップ写真をインターネットで閲覧できるので、園での様子を知つてもうう。 | クラスだよりに写真を入れ、画像からリアルに園生活が伝わるように、教育内容、集団生活の様子を伝えます。保育教諭の文章力アップに取り組む。 担任撮影のスナップ写真は、子どもとの距離が近く、記録としても使えるので、意識して撮影する。 | 写真入りのクラスだよりは好評のようで良かったです。他クラスのお便りも玄関に貼り出すことによって多くの人に見てもらえる機会が増えました。今後は動画配信も取り入れてアピールしていきたいです。 | クラスだよりは毎週楽しみにしています。写真があつて読みやすいです。 スナップ写真の公開をもっとたくさんしてほしいです。 |
| 成長と園生活の充実への配慮 | 毎朝のサーキット運動を充実させ、園児の園生活の質の向上を図る。 発達段階に応じて、鉛筆を持つ練習、字を書く練習を取り入れていく。 | 眠り脳の活性化を主に置いた運動メニューを取り入れる。毎朝運動を行う。サーキット運動にもたくさんのバリエーションを持たせ、様々な体の使い方を体験させていく。 鉛筆の持ち方、筆圧などを確認し、個々に応じた練習方法をしていく。 | ほぼ毎日の取り組みは充実できたと思います。運動メニューの充実も体育主任の専門的知識が活用されただと思います。 | 運動が好きになったと思います。 公園に行った時同じ年齢の子どもと比べて遊具で遊びのレベルが違いました。 もっとたくさん運動させて下さい。 |

| テーマ | 具体的な目標 | 具体的な取り組み | 反省と自己評価 | 保護者からのご意見 |
|---------------|---|---|--|--|
| 健康への配慮 | 感染症の対策の徹底と知識を深め、予防に努める。園児ひとりひとりの疾病を教職員全員で把握する。 | 園児に対する手洗い、うがいの指導。保健所等と連携を図る。感染症等の情報について保健所や園医からの情報を保護者に発信する。 | インフルエンザや風邪等の感染症にかかった時のお休み等、ご家庭の対応がとても協力いたしました。一般的な感染症の蔓延は今年度も無かったです。しかしながら、出席停止ではない感染症、水っぽ等は医師も休む必要も治療も無いと伝えてしまうので、感染防止が困難です。集団生活であること、重症になる子もいることをもっと伝えていく必要があると思います。 | 仕事を休むことがとても大変。症状が軽いときに子どもを休ませなくてはいけないと思うと複雑な気持ちになる。みんなにうつして、またかかると思うと仕方がないと思います。症状が軽い時は園で預かってもらえる体制にしてほしいです。 |
| 安全への配慮 | 自由な外遊び時間、その他設定保育の時間のケガの防止。 年齢ごとの発達を理解し、遊び方・参加のさせ方に気をつける。 | 遊具、園庭の状態観察等、怪我の予知とルールの徹底する。教職員の意識向上を図る。 また、室内での怪我も増えていることを意識していく。 | 怪我の防止で運動を制限するか、遊具遊びを制限するかと考えてしまうこともあります。子どもの将来を考えるとのびのび遊ばせたいです。 簡単に骨折をしてしまった事故もありましたが、事前に予防できなかった状況でした。ご家庭と協力して体幹を鍛えることと食生活の向上が今必要な予防策だと思います。 | 危険なことをほっとかれるとは思いません。思いっきり遊ばせてほしいです。 |
| 保育教諭としての資質と能力 | 各種研修会への派遣、専門家の来園、専門講師による保育時間への積極的参加。 全教員に特別支援教育の知識を持つ。 | 専門講師に学び、自ら設定保育に取り入れ、園児の学習を深める。特別支援教育への知識向上は、保健所、医師、専門家との連携を図り、また、講習会への参加を促す。専門リーダー等の創設で専門分野向上を図る。 | 園内研修としては保育実践を中心にして行いました。外部研修は北海道が主催するキャリアアップ講習を中心に行いました。 今後も可能な範囲で研修や講演参加もしていきたいと思います。 | 忙しいと思いますが、頑張って下さい。 家庭で必要なことを是非伝えてほしいです。 |
| 子育て支援への取り組み | まめっちょ教室、キッズクラブどんぐり、園庭開放、絵本クラブの充実。 | まめっちょ教室とキッズクラブどんぐり、園庭開放の開催日数拡大、そして、内容の充実に取り組む。 絵本クラブへの教員の積極的参加。 また、保護者に取り組みを周知していく。 | 子育て支援の教室は、多くの参加があり、賑やかでした。今年度は保護者向けの講演会は開催できなかったので、これからの課題にしたいです。 | 幼稚園に来ることを楽しみにでき、兄妹で通えるので嬉しそうでした。講演会などで園に来る機会がもっとほしいです。 |
| 特別支援をする子への支援 | 個人の実態を園全体で把握し、専門家に相談の上、必要な支援をしていく。 | 職員会議等で園児の実態を保育教諭全体が把握し、専門家にアドバイスをもらう。 感覚統合療法への取り組みを実施する。 感覚統合、音楽療法の充実の為の環境整備を充実する。日常に感覚統合遊びを取り入れる。 クラスでは苦手な部分を繰り返し行うなど、配慮していく。 | 特別支援が必要な子のみならず、全員が感覚統合的な体験が必要な時代だと思います。今年度は支援対象のお子さんを特にした方が良いと判断したお子さんに対して実践しました。 医療機関や児童ティサービスとの連絡やモニタリングにも協力いたしました。 | 対象園児の個人情報保護の為、省略。 |